

公益社団法人日本地球惑星科学連合  
第17回学協会長会議議事録

開催日時 :平成 29 年 10 月 12 日(木)15 時から 17 時

開催場所 :東京大学地震研究所 2 号館 5 階 第一会議室  
東京都文京区弥生 1-1-1

出席者 :

[学協会] 齋藤 文紀(日本第四紀学会,議長), 高橋 昭久(一般社団法人 日本宇宙生物科学会), 井上 源喜(一般社団法人 日本温泉科学会), 日比谷 紀之(日本海洋学会), 井口 正人(特定非営利活動法人 日本火山学会), 宮本 潔(形の科学会), 佐竹 健治(日本活断層学会), 大谷 栄治(日本鉱物科学会), 森田 喬(日本地図学会), 北村 晃寿(日本古生物学会), 吉川 賢(日本沙漠学会), 林 歳彦(資源地質学会), 山岡 耕春(公益社団法人 日本地震学会), 古宇田 亮一(日本情報地質学会), 樋口 篤志(一般社団法人 水文・水資源学会), 島田 秋彦(生命の起原および進化学会), 浜田 康史(石油技術協会), 兒玉 裕二(公益社団法人 日本雪氷学会), 日置 幸介(日本測地学会), 谷本 浩志(日本大気化学会), 高野 修(日本堆積学会), 竹之内 耕(地学団体研究会), 川幡 穂高(日本地球化学会), 渡部 重十(地球電磁気・地球惑星圏学会), 藁谷 哲也(日本地形学連合), 渡部 芳夫(一般社団法人 日本地質学会), 由井 義通(地理科学学会), 村山 祐司(公益社団法人 日本地理学会), 海東 達也(地理教育研究会), 玉川 英則(一般社団法人 地理情報システム学会), 春山 成子(公益社団法人 東京地学協会), 西城 潔(東北地理学会), 濱本 昌一郎(土壌物理学会), 篠原 也寸志(一般社団法人 日本粘土学会), 北野 雅治(日本農業気象学会), 粟屋 善雄(一般社団法人 日本リモートセンシング学会), 中本 泰史(日本惑星科学会), 原田 尚美(地球環境史学会), 芳原 容英(日本大気電気学会),

[日本学術会議] 藤井 良一(日本学術会議地球惑星科学委員会委員長), 田近 英一(日本学術会議地球惑星科学委員会副委員長), 木村 学(日本学術会議地球惑星科学委員会幹事)

[連合] 川幡 穂高(会長), 田近 英一(副会長), 中村 正人(副会長),  
(敬称略)

議事内容 :

#### 1. 前回議事録確認

前回会議議事録を確認した。

#### 2. 日本地球惑星科学連合活動報告

##### (1) 2018 年大会準備状況報告(川幡会長)

会期中の日程やスケジュール、開催会場について説明があった。

本会議開催日はセッション提案受付の最終日である。本会議直前段階の速報では 220 以上のセッションがあり、見通しを超える提案が集まった旨報告があった。

##### (2) 2019 年以降の連合大会について

2019年以降の連合大会について、日程、開催場所などの報告があった。2020年はAGUとのジョイントミーティングとなる。2021年はパシフィコ横浜に隣接する横浜みなとみらいの新施設を利用するが、開催時期は例年より1週間ほど後(5月30日～6月3日)になる。

### (3)2017年度選挙に関する報告

本年は連合の代議員、セクションプレジデント、理事候補者の選挙を開催している。現在は代議員選挙の投票受付中である。多くの方に立候補・推薦をいただき、全区分で定数を超えたため投票を開催する。

### (4)2018年度三宅賞についての報告

2018年度より公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞(三宅賞)の表彰事業を行うことについて報告があった。

### (5)2018年度日本地球惑星科学連合フェロー候補者推薦募集について

10月より、2018年度日本地球惑星科学連合フェロー候補者の推薦を募集している旨報告があった。

### (6)理事の退任に関する報告(P13)

平成29年8月24日をもって、サイモン・ウォリス理事が退任届を提出し、理事を退任したため、理事の数は19名となったとの報告があった。

### (7)PEPS ジャーナルの出版状況報告

PEPS(Progress in Earth and Planetary Science)の編集・出版状況について川幡会長より報告があった。ジャーナルは現在、順調な編集・出版を進めている。

科学研究費補助金(国際情報発信強化)の申請について資料を提示し、「PEPSは連合と参加50学協会での共同出版」であることを確認した。さらに、提案書の内容について、特に新規性について報告した。

### (8)「アジア太平洋地域における学協会との協力関係に関するアンケート」へのご協力をお願い

グローバル戦略委員会アジア太平洋作業部会より、学協会に向けて「アジア太平洋地域における学協会との協力関係に関するアンケート」へのご協力の依頼があった。

### (9)川幡会長より、日本陸水学会から退会届が提出された旨報告があった。

連合の活動報告に対して、以下の質疑応答があった。

2020年のAGUとのジョイントミーティングの運営方法、また今後のジョイント開催の予定についての質問があり、川幡会長よりセッションやプログラムの編成については2017年とほぼ同じ方式でなされとの報告があった。なお、費用負担などについては、特別な体制をとることなく平常通りの体制で運営ができるように計画していることが報告された、また今後の予定については決定していないがAGU側からも2017年の成功に対して前向きな反応があったため2020年大会があるとの回答があった。

横浜会場での大会運営について、定期開催の有無などについて質問があった。川幡会長より、横浜会場での開催は費用面で負担が大きい恐れもあるが、会員や参加者の意向を踏まえて検討していきたいと回答があった。

三宅賞関連の進歩賞について質問があった。川幡会長より、連合には西田賞(年齢制限は45歳以下)があるので、進歩賞は設けず三宅賞のみとする、との説明があった。

### 3. 日本学術会議の近況報告(日本学術会議地球惑星科学委員会 藤井委員長)

藤井委員長より、日本学術会議の活動報告があった。

前回の報告以降の第23期学術会議の活動報告として、重点大型計画の採択状況、提言「我が国の地球衛星観測のあり方について」の発出、公開シンポジウム「我が国の衛星地球観測計画」、学術フォーラム「放射性物質の移動・拡散の計画と予測」について報告があった。

第24期の体制と活動計画について報告があった。各分科会の立ち上げの準備をしており、地球惑星圏分科会、地球人間圏分科会、国際連携分科会、人材育成分科会、社会貢献分科会が予定されている。11月には小委員会と合わせて承認の予定である。また、マスタープラン策定、夢ロードマップの改訂およびそれに関連するユニオンセッションの予定について報告があった。

委員の選任時期についての学協会から質問があり、藤井委員長より、可能な限り小委員会設置と同時に選任できるように進めていきたいとの説明があった。

日本の長期的研究力の衰退に関する問題提起があり、この問題に対して連合、学協会、学術会議地球惑星科学委員会が連携することについて提案があった。川幡会長より、まずはタスク・フォースを連合の中に設置し、対応していくことを検討する旨回答があった。

### 4. 日本地球惑星科学連合理事会への意見とその集約について

齋藤議長より、連合の体制変更や学協会長会議幹事会設置の経緯について再確認があり、諮問機関として学協会長会議が連合理事会に対して意見を述べるができることの説明があった。その集約方法や幹事会の進め方について、学協会に意見が求められた。

学協会から、会員の意見を集約する連合の体制が万全ではないため、学協会長や連合代議員が会員の意見分布を把握できるとよいのではないかという意見があった。川幡会長より、意見集約の重要性を認識している旨回答があり、学協会長会議幹事会にも個別の事案について意見集約を依頼したい旨依頼があった。また、連合には他の学協会と比べて学生や若手会員の割合が高いので、そうした方の意見を尊重することも必要であるとの説明があった。

齋藤議長より、本会議後も各学協会でも意見集約を行っていただきたいとの依頼があった。意見や要望などのある場合は2018年2月末を目途に各学協会から連合事務局に提出することになった。

### 5. その他

日本大気化学会谷本浩志会長より、日本大気化学会が共催するiCACGP-IGAC2018の開催準備報告があった。2018年9月、香川にて開催する。誘致の際には連合からのサポートレターを発出しており、また連合は本会の協賛団体でもある。

以上